



東陽病院 副院長 伊藤 文憲

健康への

メッセージ

シリーズ 100

慢性肝炎とは

光町のみなさんこんにちは。今回は慢性肝炎について述べます。慢性肝炎の原因の大半はウイルスによるものです。アルコールの多飲による慢性肝障害は禁酒によって改善されますが、B型やC型肝炎ウイルスによる慢性肝炎は徐々に進行し、肝硬変に至り種々の合併症を起こしますので、早期に発見して病気の進行を抑えることが重要です。

B型肝炎ウイルスは成人の感染は、わずかの重症例を除くと、治療により治癒し慢性化することはありません。B型肝炎ウイルスは健康保菌者といわれるキャリアからの発病が主です。B型肝炎ウイルス陽性のお母さんから生まれた時に感染し、免疫が不十分のためキャリアとなる例がほとんどです。最近ではウイルス陽性の妊婦の出産時には赤ちゃんに免疫グロブリンとワクチンが投与され感染予防が可能となっています。

キャリアのまま発症することなく高齢になる例もありますが、20歳から35歳前後に急性肝炎の症状が見られて外来に受診する場合があります。入院治療により元のキャリア状態に戻ることもあります。安静が守られなかったりアルコールの多飲など肝臓に悪影響を与えるようなことをした場合には慢性化します。

時にはいくら安静を守ってもウイルスの力が強く慢性化し治療に難渋する例もあります。肝臓を庇護する薬剤の点滴や経口投与が行われますが、効果がなく慢性活動性肝炎

になった場合には、抗ウイルス薬であるインターフェロンの投与が考えられます。肝臓の組織検査により慢性肝炎の進行度を検査した後に薬剤を投与しますが、ウイルスの量や型により効果が異なります。インターフェロンにも副作用がありますので専門医と良くご相談してください。肝機能の値が変動する例やウイルスの除去ができない場合には慢性活動性肝炎は徐々に進行し、日常の労働の制限や禁酒を含めた生活上の節制が要求されます。定期的に通院して肝機能検査のチェックを行い、肝硬変への進行や肝細胞癌の発生に対して腹部の超音波やCT検査などが必要となります。

C型肝炎は、急性肝炎から慢性化する例が多く問題となっています。戦後の覚醒剤の注射や刺青、手術時の輸血などにより感染し、自覚症状が乏しいため気がつくまで慢性肝炎の状態が外来を受診するケースが大半です。最近では、健診を契機に軽度の慢性肝炎の状態が発見され治療により改善する例も増えました。GOTやGPTという数値が50〜100までの値をとり症状は軽度ですが、この段階でしっかり治療を受けることが大切です。肝機能検査値が変動する時には入院加療も必要です。B型と同じような治療を行い、インターフェロンの投与も検討されます。慢性活動性肝炎の状態になった場合はB型肝炎と同じように定期的な検査が必要となります。

※東陽病院の休日当番日

3月17日(日) 午前9時〜午後5時
医師2名が待機・来院の際は電話を ☎841335

春の映画会

『ホタル』

時代に翻弄されながらひたむきに生きる夫婦の運命を描いた感動巨編

期 日 3月23日(土)
上映時間 1回目 午前10時
2回目 午後2時
定 員 各100名
入 場 整理券(無料)を3月9日(土)から
図書館カウンターで配布します。



＝町立図書館＝
☎843311

21世紀を生きるすべての人に
熱い勇気を贈る

3月の休館日

11日(月)、18日(月)、21日(木)、25日(月)、29日(金)